

濃厚接触者待機短縮へ

14日間→7か10日 社会の機能を維持

新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者の待機期間について、現在の14日間から原則10日間に短縮する案を、厚生労働省に対策を助言する専門家組織が13日、議論した。7日間とする選択肢も示された。オミクロン株の流行下、介護や輸送など命と暮らしを支える「エッセンシャルワーカー」の濃厚接触者が増えれば、社会機能を維持できなくなる懼れがある。厚労省は「彼らの意見を踏まえ、近く最終判断する。

提言案は、政府対策分科会の尾身茂会長や専門家組織座長の臨田隆也・国立感染症研究所長ら感染症の専門家らが作った。

濃厚接触者

新型コロナウイルスの感染リスクが高い人を指す。潜伏期間も3日前後で短い。うつした特徴を踏まえ、案では濃厚接

案によると、オミクロン株は、デルタ株に比べて感染性が高く、潜伏期間も3日前後で短い。うつした特徴を踏まえ、案では濃厚接

感染8割 オミクロン株か

新型コロナウイルス対策

る。

会話の有無などで感染リスクは大きく異なり、こうした点を踏まえて保健所などが判断する。濃厚接触者は

厚労省は、新型コロナに感染した人のうち、変異ウイ

ルス「オミクロン株」の

疑い例が全国で8割を占め

たことを明らかにした。

「第5波」をもたらした予

防省による「必要な感染

対策をせずに手で触れた

り、1度程度の近きで15分

以上接したりした人が対象

1千件を超える東京都83

触者の待機期間を原則10日間とした。さほど「感染拡大防止と社会活動の継続の両立が必要な場合」には、7日間とするのも選択肢とした。また、感染者自身につけても、医療機関の従事者で

以降では、ウイルスの排出がみられなかつたという報

%、大阪府88%など都市圏でも広がっている。

オミクロン株の全国割合は、4週前（昨年12月6日～12日）は1%、3週前（同13日～19日）も3%だった。しかし、2週前（同20日～26日）に16%、1週前（同27日～1月2日）は46%と急拡大していた。

（石塚正志）

告がある。

新型コロナの従来株は、5日程度で発症することが多いとされてきた。オミクロン株については、国立感染症研究所が沖縄県での調査報告を11日に公表。潜伏期間は2～5日間で、3日間が最も多かった。

他の地域に先行してオミクロン株の感染者が急増した沖縄県では、濃厚接触者が相次いでいる。政府は、医療従事者が濃厚接触者にならぬ限り、毎日検査で陰性を確認するなどの条件付きで、勤務の継続を認めている。（枝松佑樹、市野鬼）